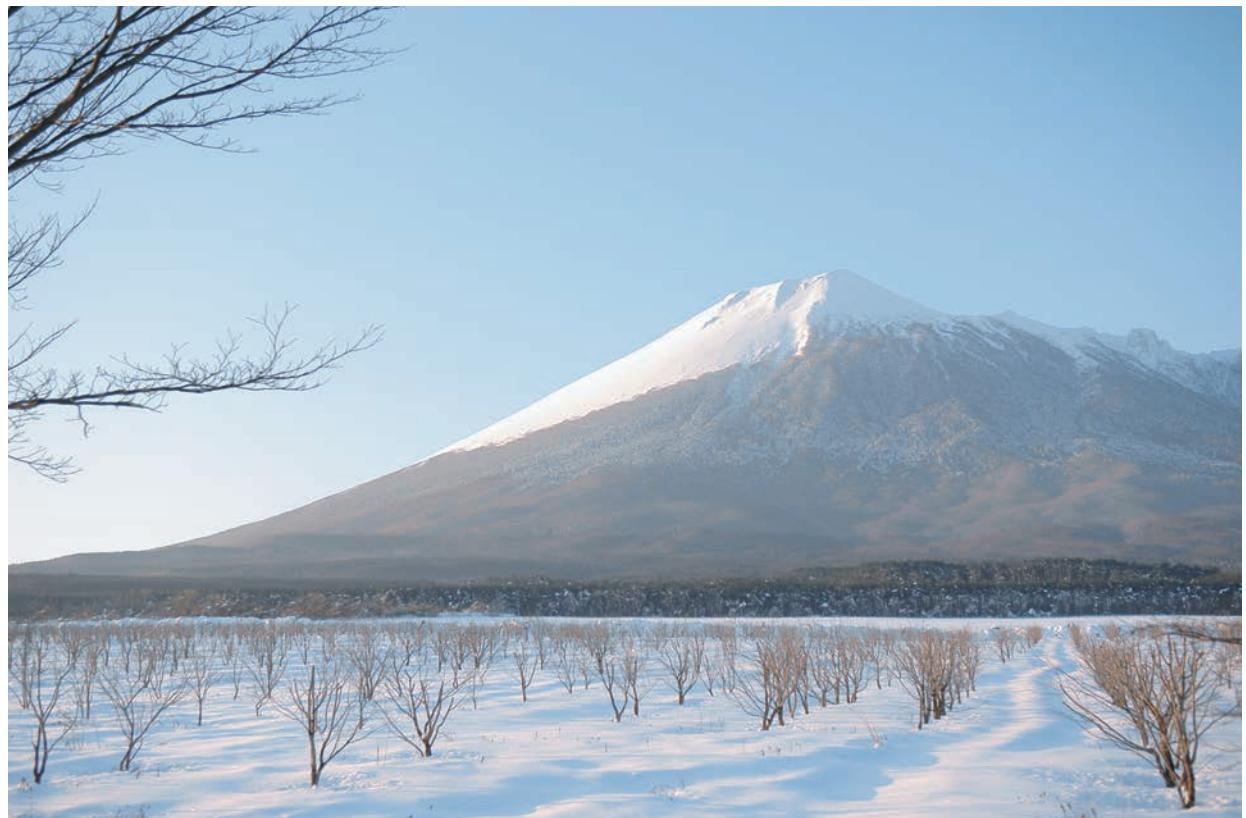


岩手郡医報

高橋 孝先生 書



冬の果樹園 撮影:森 茂雄

岩 手 郡 医 師 会

No.87／2007年3月

目 次 CONTENTS

巻頭言	岩手郡医師会 会長 及川忠人	1
臨時総会並びに特別講演会		2
総務会議事録		6
理事会議事録		7
各種行事報告		
第18回岩手地区健康教育研究大会		9
第23回岩手県学校保健・学校医大会		9
こころの健康づくり講演会		11
新規開業 (栗石大森クリニック)		14
会員の異動		15

表紙Photo 森 茂雄「冬の果樹園」

3日間待って、やっと1月29日にチャンスが
きました。6時に起床し、6時半からシャッター
チャンスを待ち、7時ごろやっと撮れました。
いい天気に恵まれ幸運でした。



卷頭言

六中觀に学ぶ

会長 及川忠人

歴代首相、吉田茂、池田勇人、佐藤栄作等の指南役として有名な安岡正篤氏の書物の中に、この六中觀がある。地域医療やその周辺の雑事に忙殺される立場にある会員諸先生方も多いと思いますが、この考え方と心構えに従い学びつつ進むべきことへの感想を述べて卷頭言に代えたい。

先ず第一に「忙中閑有り」である。これは忙中につかんだものこそ本物であるという意味であり、我々が日常臨床場面では「閑」の捉え方が大切であると思う。第二が「苦中樂有り」です。苦中に掴んだ「樂」こそが本当の樂であるということを示す。樂の意味は苦勞と比してこそ本質が理解できるということであろう。第三は「死中活有り」である。身を棄ててこそ浮かぶ瀬もあれ。すなわち自分の立場を無にすることこそ難難を乗り越える知恵であることを教えているのではないだろうか。第四は「壺中天有り」である。どんな境涯でも自分だけの内面世界を作ることが出来る。自分で没頭できる趣味等を持つことは大切であり、どんな壺中の天を持つかが問われる所以である。第五番目は「意中人有り」である。心の中に尊敬する人、相ゆるす人物を持つことであり、自分の手本および目標となる人物を持つことを意味する。最後の第六は「腹中書有り」である。心身を養い、実務に役立つ学問を生活の中に生かす「書物」を持つことを示唆している。以上の六中觀を平成に心構えにしていると、いかなる場合にも決して絶望したり、仕事に負けたり、屈託したり、精神的空虚に陥らないように心がけることが大切であると教え諭されている。

この六中觀こそが人生の歩むときの指針の大要をつつみこむものであり、東洋哲学の源流を思わせるものがあると感じるものがある。地域医療にそれぞれの立場で献身しながら、日常のご苦勞を厭わない会員の諸先生方におかれましては、困難な現状を如何に打破するかは、平凡かもしれませんのが、この六中觀を心に置きながら患者さんへの日常臨床活動にその人間学的価値観を如何に注ぎ込むかが問われているような気がしてなりません。平成19年が、会員諸先生方の地域医師会活動へのご支援を頂きながら新しい地域医療の再生への第一歩としての大切な年になりますことを心から期待申し上げまして卷頭言に代える次第です。

臨時総会並びに特別講演会

■日時／平成18年11月25日（土） 17：00～

■場所／ホテル東日本 3階 青雲の間

司会進行：理事 栄内 秀彦

- 1 開 会 副会長 岡田 行生
- 2 会長あいさつ 会長 及川 忠人
- 3 参加会員数確認
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人選任
- 6 議事等 会務報告：会長 及川 忠人

会務報告：地域医療と医師会活動の課題

会長 及川 忠人

岩手県地域医療Grand Design (2006年3月岩手県医師会策定)

- ・地域医療とは
- ・二次医療圈
- ・医師確保と地域医療推進
 - ①医師確保②小児医療③産科医療④認知症対策
 - ⑤女性医師の就業環境
- ・県立病院のあるべき姿
- ・救急医療と災害医療
 - ①救急医療②災害医療
- ・いわゆる終末期医療
 - ①ピッキングウイルの推進
 - ②施設死と在宅死

地域医療とは

- ・地域医療とは「病気という状態を癒す」とだけではなく、生命の尊厳を含めた広い意味での健康を地域社会全体で守って行こうとするもの」と考える。
- ・故武見太郎日本医師会会長は「地域医療とは医学の社会的適応であり、それには包括的医療体制の実践が必要である」と述べている。今でも大きな示唆を与える言葉である。

現状の課題

- ・唐沢日本医師会会長の提言
- ・NHK総合テレビ10月14日
「日本の、これから～医療 安心できますか～」
- ・出演者
 - 日本医師会 唐沢会長
 - 厚生労働省 辻哲夫事務次官
 - 国際基督教大学 八代尚宏教授
 - 済生会栗橋病院 本田宏副院長
 - 医療ジャーナリスト 伊藤隼也
 - 作家 遠洋子氏

生アンケート調査結果(1)

- ・1)「あなたは、今の医療に安心できますか」
 - ①安心できる 1174
 - ②安心できない 6527
- ・2)「あなたは、医療費の伸びを抑えるために、医師の数を抑制するという考え方をどう思いますか」
 - ①賛成 605
 - ②反対 6619
 - ③どちらともいえない 1812
- ・3)「あなたは、高齢者の医療費を抑制することをどう思いますか」
 - ①抑制はやむを得ない 1838
 - ②抑制すべきでない 4885

生アンケート調査結果(2)

- ・4)「あなたは、今後の医療のあり方はどちらが良いと思いますか」
 - ①公的負担が大きくても、国が十分な医療サービスを保証する 3230
 - ②市場原理を導入することで公的負担を小さくする 993
- ・唐沢日医会長の意見：
 - 1)国民皆保険制度は素晴らしい。
 - 2)医療費の抑制は問題である
 - 3)高齢者は罹患率が高く、早めの治療開始が重要である

医師の偏在・不足の原因と対策

- ・医師の偏在・不足の原因是、国による長年にわたる医療費抑制政策が根底にある。
- ・日医の医師確保問題への対策
 - ①安全で良質な医療を平等に提供する体制の確保:僻地医療の確保
 - ②勤務医の確保:特に外科系を中心とした救急医療の確保
 - ③かかりつけ医機能の充実:診療所と病院との機能分化と連携
 - ④医師会活動の強化:地域医療の充実、安定した医療供給体制の維持

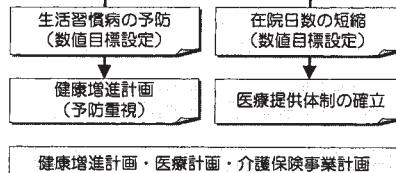
日医の取り組む主な対策

- 1)ドクターバンクのネットワーク化: 医師再就職情報提供および無料紹介制度の立ち上げ
- 2)女性医師バンクの創設・実施:
- 3)地域医療のデータベース化: 地域の医療需要や供給などを全国的に調査、勤務医の就労状況、地域住民・患者の意識、受療行動等医師の確保・偏在対策、医療と介護のグランドデザイン等、後期研修における僻地医療・診療システム、医師の安心して診療に携われる仕組
- これらの課題を地域医療対策委員会にて検討して提言する

医療費適正化計画

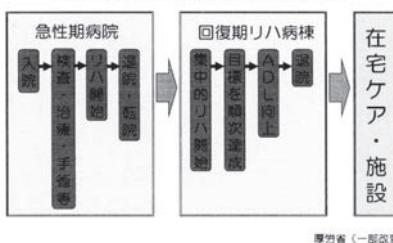
(平成20年開始 厚労省)

各都道府県が策定

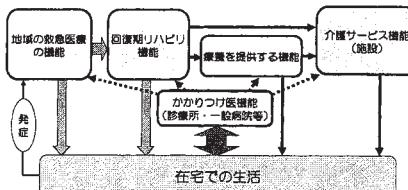


地域連携パスのイメージ

(急性期病院と回復期リハ病院で共有)



例) 脳卒中の医療連携体制のイメージ



これからの医療制度改革の予定

- 2006年10月: 70歳以上の高所得者の自己負担2割 → 3割へ
70歳以上の長期入院患者の食事・居住費を保険外へ
- 2007年4月: 出産育児一時金30万円→40万円
- 2008年: 70-74歳の自己負担を1割 → 2割
3歳未満の2割負担を小学校入学前まで拡大
75歳以上の高齢者医療制度創設
政府管掌保険を都道府県単位の公法人へ移管
- 2011年: 医療給付費の伸びを検証
2011年度末までに療養病床38万床を15万床へ削減(介護13万床 0床、医療25万 15万床)

高齢者リハビリテーション

(平成16年1月)

- 急性期リハビリが不十分
- 長期間にわたる効果のないリハビリ
- 医療から介護への不連続なシステム
- リハビリとケアとの境界が不明確
- 在宅のリハビリが不十分



平成18年度診療報酬改定・介護報酬改定に反映

医療から介護へ連続するシステム

- 医療保険においては、日常生活上の機能回復を目的として「発症後早期のリハビリテーション」や集中的かつ専門的なリハビリテーションを評価
- 症状が固定した後の「機能の維持を目的とするリハビリテーション」に移行するべきものについては、医療保険において算定日数の上限を設けたものである。
- 「機能維持を目的とするリハビリテーション」を受ける場合にはあっては、要介護認定を受けた上で、介護保険の通所リハビリテーション等を利用していくことになる。(06厚生労働省案)

三方一両損

- 小泉政権発足の時に掲げた「構造改革」が真っ先に手がけたのが医療保険における被保険者本人の医療費自己負担の2割から3割への引き上げであった。これが三方一両損といいう「痛み」の受け入れであった。
- 試案では「痛み」どころか日本国憲法25条の「国民の生存権」おも脅かす事態すら起す危惧がある。
- 「改革」という巧妙なトリックによって社会保障と国民皆保険制度はここでもまた、さらになし崩しにされる。

WHO健康状態総合ランキング*

- OECD加盟30カ国の中での日本の医療費は17位である。
- 健康達成度評価が世界1位
- 医療制度の平等性が世界3位
- 平均寿命も世界1位
- 1961年(昭和36年)に発足した国民皆保険制度の40年以上の歴史の積み上げの成果である。
- 今日の「経済大国」日本繁栄を下支えてきたのは多くの国民と労働者の努力である。
その原動力となっていたのが、健康リスクと病気への不安を国民皆保険という公が担保する安心システムであった。
- この改革は社会的安全装置を外し、リスクや不安の解決を個人化する意図が込められている。

健康格差社会の出現

- 市場原理側がいつまでも通るとは考えにくい。何故なら国民皆保険によって保証されてきた、経済成長の原動力である国民の良質な勤労意欲と健康力が、これらの医療制度改革で滅殺されてしまうからである。
- 行き過ぎた「経済格差社会」が「健康格差社会」となり日本人の健康を蝕んできているという事実が社会疫学の専門家により指摘されている。(近藤克則氏)
- 医療制度改革の理由として國の財政逼迫を理由としてあげているが、國民の税金を壮大に浪費した主なる責任は國と政治にある。

生老病死を支える：方波見康雄氏著

- 人生とは出会いである。この出会いを私達はしばしば、思いもかけない偶然の出来事として経験することがある。
"I am a part what I have met before."
- 医療は、生きる苦しみと悲しみ、病や老いと死とに出会うところである。このことが医療における人生的出会いの意味を濃密にし、奥行きの深いものにしている。
- 子供きらうな 自分も来た道じや
老人きらうな 自分も行く道じや

臨床医とは何か、何をするのか？

- 「臨床医の任務は、ある人つまり患者さんが病気によって受ける全体的衝撃(トータルインパクト)を効果的に取り除くために、病む人間をマネージすることにある。」(NEJM 1970 タマルティ教授)
- 「マネージ」とは、人間存在としての患者さんの、病気から受けるインパクトだけでなく、精神的・経済的・社会的影响についても包括的に対応することである。臨床医は、こうした問題への感受性を深めることが大切である。」

プライマリ・ケアとは何か

- プライマリ・ケアの特徴は、患者と医師との間の長期的かつ持続的な関係である。
プライマリケアの特徴が、ある人の一生を綴った映画のフィルムであるとすれば、
病院や専門医とのエピソードは、
ある一定の時間の疾病をもつ人のスナップ写真のようなものである。

癒しと支えと慰めを

- ときに癒し
しばしば支え
常に慰む
- アメリカの核医学トルドーの銅像の台石に刻み込まれている碑文である。
- 彼は医療を癒しと支えと慰めの三つの要素を調和・統合した全人格的な営みとして実践した。
- 医療者の人格的資質や教育、医療の仕組み、医療と様々な分野との連携など取り組むべき問題が山積している。

市町村合併と地域医療の行方

- 2005年10月20日：
厚生労働省「医療制度構造改革試案」の公表
(高齢者への重い医療費負担増、制度としての医療を国民から遠ざける冷たい内容)
- 新たに創設する「高齢者医療保険」の運営責任を地方自治体に委ねる。
- 社会保障の理念や国民皆保険制度もなし崩しにされる内容。
- 経済格差の大きな地方自治体が高齢者医療保険運営の名目で「高齢者医療費」の削減や「効率化」の競合をさせ、平均入院日数短縮などの数値目標を設定し、達成できなければ交付金や補助金カットのペナルティを課す。
- 全国一律といふ社会保障の理念が崩壊し、高齢者の人々が生きる医療や地域ケアよりも危うくなる。

奈井江町立病院と砂川市立病院の医療連携(医療協定書)について

- ＜目的＞
相互の医療機能の強化
それぞれが有する医療機能の効果的な発揮
地域医療の確保
相互の医療水準を高める
地域住民の健康維持増進に寄与
- ＜範囲＞
医師の派遣、病床の有効利用、患者の紹介・逆紹介、医療機器等の共同利用、カンファレンス・研修会などの合同開催、医療情報の共有、総合情報システム等のIT化、病院の運営形態の検討

地域医療の本質的あり方

- 地域医療の本質はそもそもが広い意味で「連携」にある。
「連携」とは、地域の他の病院や開業医診療所等との対等の立場での役割分担や相互補完を機能させていくという姿勢を指す。
- 広い視野での問題解決のために、地域医師会が主導的な役割を担うべきである。
- 医療は教育とともに、人間が人間らしい生活を営むために、貴重な役割を果たす社会的共通資本であり、市場原理や官僚的基準によって支配・管理されてはならない。

小さな国の選択

- 北欧の小国フィンランドの「國のかたち」への想い。
フィンランドは旧ソ連崩壊のあたりやバブルの破綻などで経済的苦境が続き失業率も高かった。
- それが今では、経済的苦境を乗り越え、福祉政策や教育、情報産業、国際競争力などでは、EUというよりは世界のトップクラスになっている。
- その理由の一つは、国民の能力や健康や生活を支えることが国力の全体的発展につながるという政策を優先的に選択した。
もう一つは道府県のような中間政府をなくした。

地域ケアへの新しい試み

- このようなフィンランドの「國のかたち」作りが成果をあげつつある根底には、小国の大義があるのかもしれない。(シベリウス作曲：フィンランディア)
- これらの試みには地域の医療と福祉、教育と文化、自然や風土、歴史などのすべてが重層して総合的に関わる。一人ひとりの人間としての優しい心が大切になり、どれもが地域に住む私たちに出来ることばかりである。
- 人類文化としての医療が「社会的共通資本」としてさらに認識され、地域医療ケアとして果たす役割は大きい。

■ ■ ■ 特 別 講 演 ■ ■ ■

■日時／平成18年11月25日（土） 17：30～
 ■場所／ホテル東日本 3階 青雲の間

演題：「重症循環器疾患の発病予防のための新たな
 スクリーニング法の試み」
 一心電図・血圧・脂質測定は効果的？—

講師：岩手医科大学医学部内科第二講座教授 中村 元行 先生
 座長：会長 及川 忠人



重症循環器疾患を予防するためには生活習慣の見直しをきちんとしなければいけません。食事に気をつけ適度の運動、禁煙、肥満に注意しちょっとのお酒、わかってはいるけれどやはりドキッとするお話です。著しい高齢化と医療費の高騰も踏まえ、また日本と欧米とのちがいをお示しになり、二戸地区の長期間の追跡調査からもこれまでの健康診断の心電図、血圧、脂質測定では発症予防の観点からでは限界がある。その候補として高感度C R P、B N P、尿中微量アルブミン値を参考にしてさらに精度の高い健診ができるのではないかというご講演でした。そして岩手県北地域コホート研究を続行・進行中とのことでこれからもたくさんのご示唆をいただけるものと思います。

プロフィール

【学歴】

昭和52(1977)年3月
 岩手医科大学医学部卒業第二内科入局
 昭和56(1981)年4月
 岩手医科大学大学院博士課程内科学修了
 昭和62(1987)年10月～63(1988)年10月
 ニュージーランド、オタゴ大学、クラ
 イストチャーチ医学校 プリンセス・マー
 ガレット病院内科に留学（ナトリウム
 利尿ペプチドホルモンの研究に従事）

【職歴】

昭和56(1981)年6月
 岩手県立千厩病院第二内科科長
 昭和58(1983)年11月
 岩手医科大学第二内科助手
 昭和60(1985)年10月
 岩手医科大学第二内科講師

平成17(2005)年5月

岩手医科大学内科学第二講座教授
 現在に至る

【所属学会・専門医等】

日本内科学会（認定専門医・地方会評
 議員）
 日本循環器学会（認定専門医・地方会
 評議員）
 日本心不全学会（評議員）
 アメリカ心臓協会(A H A)臨床心臓学
 部会会員
 日本内分泌学会（代議員）
 日本心臓血管内分泌代謝学会（評議員）

【研究領域】

循環器疾患とくに心不全の神経体液性
 因子や末梢循環からみた病態、循環器
 病の疫学

■■■ 懇親会・忘年会 ■■■

■場所／ホテル東日本 2階 末広の間

- 司会進行：理事 栄内 秀彦
1. 開会のことば 副会長 篠村 達雅
2. 会長挨拶 会長 及川 忠人
3. 乾杯 西島 康之
4. 懇談

平成18年度臨時総会、特別講演終了後、忘年会が開かれました。及川会長の挨拶に続き、乾杯の音頭は平成18年に叙勲に輝いた西島康之先生でした。特別講演の中村元行教授もご臨席くださり栄内理事の司会進行のもと、和やかに賑やかに会は進みました。



医師会総務会

■■■ 第5回 医師会総務会 ■■■

日 時：平成18年12月5日（火）

19:00～20:30

場 所：奥羽キリスト教センター
財みちのく愛隣協会事務室

出席者：及川忠人、岡田行生、篠村達雅、
栄内秀彦、久保谷康夫、高橋邦尚

報告事項

- (1) 町民健康講座：健康づくり講演会（11月11日於葛巻町）
- (2) 八幡平市安代地区・地域医療懇談会（11月20日）
- (3) 盛岡市医師会新A会員オリエンテーション（11月24日）
- (4) 盛岡地域メディカルコントロール協議会（11月24日）
- (5) 平成18年度岩手郡医師会臨時総会・特別講演会・懇親会（忘年会）（11月25日）
- (6) 平成18年度社会保険指導者講習伝達会・第117回岩手医学会秋季総会（11月26日）

協議事項

- (1) 第5回岩手郡医師会役員会（理事会）提出案件検討について（平成19年度事業計画及び予算等）
- (2) 岩手郡医師会第2回通常総会について
- (3) 岩手郡医師会学術講演会の開催について
- (4) 平成18年度後半の主要行事計画について
- (5) インフルエンザ総合対策について
- (6) 「広域電力線搬送通信機器による医療器械への影響に関する型式指定申請者に対する指導について（依頼）」の送付について

■■■■ 第6回 医師会総務会 ■■■■

日 時：平成19年1月16日（木）

19:00～20:30

場 所：奥羽キリスト教センター

（助）みちのく愛隣協会事務室

出席者：及川忠人、岡田行生、篠村達雅、
柄内秀彦、久保谷康夫、高橋邦尚

報告事項

- (1) かかりつけ医認知症対応向上研修会について（1月31日開催予定）
- (2) 第23回岩手県学校保健・学校医大会について（1月14日）

協議事項

- (1) 平成18年度岩手郡医師会補正予算（案）について
- (2) 平成19年度岩手郡医師会事業計画（案）について
- (3) 平成19年度岩手郡医師会予算（案）について
- (4) 第2回通常総会・特別講演及び役割分担（2月3日）について
- (5) 岩手郡医師会災害事故救急医療対策要綱の改訂について
- (6) 平成19年度担当別事業計画及び担当理事
- (7) 平成19年度岩手郡医師会主要年間活動予定
- (8) 平成18年度行事予定について
- (9) 学術講演会の開催について（3月23日）
- (10) 平成18年度八幡平市健康づくり推進大会について（2月10日）

理 事 会 議 事 錄

■■■■ 第4回 理事会議事録 ■■■■

日 時：平成18年10月24日（火）

18:45～20:30

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡

NEW WING 3階 きり

出席者：及川忠人、篠村達雅、岡田行生、
佐々木久夫、柄内秀彦、飯島 仁、
久保谷康夫、高橋克郎、和田 進、
森 茂雄、山口淑子、高橋邦尚、
西島康之

報告事項

- (1) 救急医療対策協議会（9月29日）・救急蘇生法講習会（9月27日）
- (2) 平成18年度社会保険担当者研修会・集団指導（10月6日）
- (3) 第3回群馬医師会長会議（10月14日）
- (4) 岩手県医師連盟執行委員（10月14日）
- (5) 平成18年度岩手郡医師会産業医実地研修会（10月21日） (1)～(5)について報告した。

協議事項

- (1) 第58回岩手県医師会野球大会決算について
- (2) 岩手郡医師会臨時総会・特別講演会（11月25日）の開催について
- (3) 岩手郡医師会災害事故救急医療対策要綱（第3次改訂）（案）について
- (4) 平成18年度かかりつけ医認知症対応力向上研修会開催について
- (5) 心の健康づくり講演会（11月11日）について

以上で議事を終了した。

■■■■ 第5回 理事会議事録 ■■■■

日 時：平成18年12月14日（木）

19:00～20:00

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
NEW WING 3階 きり

出席者：及川忠人、岡田行生、篠村達雅、
上原充郎、佐々木久夫、柄内秀彦、
久保谷康夫、飯島 仁、高橋克郎、
和田 進、森 茂雄、山口淑子、
高橋邦尚、西島康之

報告事項

- (1) 町民健康講座：健康づくり講演会（11月11日）
- (2) 八幡平市安代地区地域医療懇談会（11月20日）
- (3) 盛岡市医師会新A会員オリエンテーション（11月24日）
- (4) 盛岡地域メディカルコントロール協議会（11月24日）
- (5) 平成18年度岩手郡医師会臨時総会・特別講演会・懇親会（11月25日）
- (6) 平成18年度社会保険指導者講習伝達会・第117回岩手医学会秋季総会（11月26日）
- (7) 第4回郡市医師会長協議会・岩手県医師連盟執行委員会（12月9日）

(1)～(7)について報告した。

協議事項

- (1) インフルエンザ予防注射の料金等について
- (2) 岩手郡医師会一般会計・特別会計・休祭日当番医予算の関連について
- (3) 岩手郡医師会第2回通常総会について
- (4) 平成18年度学校保健活動及び平成19年度学校保健活動計画について
- (5) 岩手郡医師会学術講演会の開催について
- (6) 平成18年度後半の主要行事計画について

以上で議事を終了した。

■■■■ 第6回 理事会議事録 ■■■■

日 時：平成19年1月23日（火）

19:00～20:30

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡
NEW WING 3階 きり

出席者：高橋 孝、西島康之、及川忠人、
岡田行生、篠村達雅、佐々木久夫、
上原充郎、柄内秀彦、久保谷康夫、
飯島 仁、高橋克郎、森 茂雄、
山口淑子、高橋邦尚

報告事項

- (1) 第23回岩手県学校保健・学校医大会について（1月14日）
- (2) かかりつけ医認知症対応向上研修会について（1月31日開催予定）

(1)～(2)について報告した。

協議事項

- (1) 平成18年度岩手郡医師会補正予算（案）について
- (2) 平成19年度岩手郡医師会事業計画（案）について
- (3) 平成19年度岩手郡医師会予算（案）について
- (4) 第2回通常総会・特別講演及び役割分担（2月3日）について
- (5) 岩手郡医師会災害事故救急医療対策要綱の改訂について
- (6) 平成19年度各担当事業計画及び担当理事（案）について
- (7) 平成19年度岩手郡医師会主要年間活動予定について
- (8) 平成18年度行事予定について
- (9) 学術講演会の開催について（3月23日）
- (10) 平成18年度八幡平市健康づくり推進大会の後援について

以上で議事を終了した。

■■■ 第18回岩手地区健康教育研究大会 ■■■

■主催／岩手地区学校保健会

(会長 石山 一枝 岩手町立川口小学校校長)

■会期／平成18年10月1日

■会場／盛岡市渋民文化会館姫神ホール

岩手地区学校保健会は岩手地区内（八幡平市、岩手町、雫石町、葛巻町、滝沢村）における学校保健の推進向上を図ることを目的とし各市町村の学校保健会で組織されており、教育委員会、各小中学校、岩手郡医師会、岩手八幡平歯科医師会が役員となって運営されている。

そして健康研究大会が隔年に開催され、この第18回大会は「21世紀を担う子どもたちが、自ら健康なライフスタイルを確立する健康教育をめざして」を主題として開かれ、271名の参加があった。大会会長の挨拶に続き、及川忠人岩手郡医師会会长、三浦壯六滝沢村教育長の祝辞で始まった。医師会歯科医師会からの参加も8名、PTAの参加136名とその関心の深さを伺わせた。研究協議では滝沢村学校保健会から「心と体の学習を通して、よりよい生き方をめざす児童・生徒の育成」～小・中学校、地域の連携による性の指導を通して～と題して、滝沢小学校養護教諭高橋誠子先生、篠木小学校養護教諭佐々木あや子先生から、5カ年にわたる「性教育」の取り組みと実践について発表された。講演は「子どもの生と性に向き合うために」～大人としてできること～と題して、岩手県立大学看護学部助教授福島裕子先生からであった。性の健康問題の現状、家庭の役割・親の役割等につ

いて、客観的なデータ、具体的な資料とともに、今学校教育の中で大人として、親として自覚していくかなくてはならないことなどが話された。次は

2年後滝沢村学校保健会が事務局となり雫石学校保健会が研究発表の予定である。

(学校保健部会 山口淑子)



■■■ 第23回岩手県学校保健・学校医大会 ■■■

■会期／平成19年1月14日

■会場／岩手県医師会館

地域の学校保健活動推進のための学校医の資質充実のため、新しい学校保健活動に関する情報を取り入れ、また、県下地域の学校保健活動を通じて得られた成果を交流し合い、もって学校医のレベルアップと学校保健関係者との協調を求めながら、岩手県の児童・生徒の健康向上を図ることを目的とした会である。今回は一般演題が10題と「子ども虐待とネグレクト—アセスメントと対応を中心に—」岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科助教授 三上邦彦先生の特別講演でした。

岩手郡医師会会員 金井 猛先生が発表。内容を金井先生に書いていただきました。

(学校保健部会 山口淑子)

小児の機能性難聴と学校検診について

日本耳鼻咽喉科学会岩手県地方部会 金 井 猛

開業以来、この約3年間に機能性難聴と診断した症例が9例みられました。開業したてのクリニックの症例数としては決して少ない数ではなく、また、小児における機能性難聴において学校および学校検診との関わりが大変重要となります。

まず、機能性難聴とは何でしょうか。それは、外耳・中耳・内耳・蝸牛神経・脳幹に明らかな障害、つまり器質性障害が無いのにも関わらず難聴の訴えや聴力検査結果で異常が見られるような状態といえます。心因性難聴は機能性難聴と同義語的に使用されることがあります。発症の背景に何らかの精神的ストレス、心因があると考えられた時使用されます。そして、意図的に難聴を装ったものを詐聴と呼びます。

ここで、当クリニックで最近経験した症例を紹介いたします。症例は15歳の男子です。H18年8月、学校検診で聴力検査に所見ありと指摘され当院を受診しました。自覚症状はなく、聴力検査結果は右難聴を示しており、10歳頃より不登校があり、4月に心因的体調不良のため1ヶ月間ほど内服治療をしていたようです。機能性難聴と診断。母親と相談の上、経過観察していましたが、1ヶ月後、聴力検査上は正常にもどっておりました。症例の様に、本人に自覚が無く日常生活に支障が無いにも関わらず難聴を指摘されるケースがあります。この様な機能性難聴に対し検診難聴という概念ができました。

耳鼻咽喉科検査所見として症例の純音聴力検査と自己オージオグラムの結果を提示します。機能性難聴に典型的な茶タクに近い水平型の難聴と、持続音と断続音が逆転したジャーガー分類のV型でした。その他、語音聴力検査、耳小骨筋反射、聴性脳幹反応、耳音響放射などの診断に有効な検査があります。

機能性難聴の疫学的特徴は、小児とくに8歳から10歳、小学2・3年を中心多く発するようです。男女比は1:5と女児に多いようです。日本耳鼻咽喉科学会・学校保健委員会の調査によると発症頻度は小学生で0.08%、中学生で0.05%程度と推定されています。また、患側においては両側性と一側性の比率は約5:1で両側性が多いようです。

機能性難聴と診断された児童・生徒の多くは学校検診で難聴を指摘されており、これまでの文献報告によると77~33%と幅がありますが、最大の受診動機となっています。仙台市では学校検診の二次検査ならびに精密検査を宮城県医師会ヒヤリングセンターで行われており、そのデータを引用させていただきますが、仙台市の学校検診において機能性難聴が疑われた児童・生徒は、1991年から97年の平均は小学生0.05%、中学生0.03%、2001年から03年の平均は小学生0.03%、中学生0.01%です。この結果を見ても、

本人に自覚がなく、周囲も全く気がつかない、そのような機能性難聴の発見において、学校検診での聴力検査の意義はきわめて大きいといえます。

学校検診で難聴を疑われる児童・生徒の中には通常の聴力検査に正確に応答できない子があり、提示したような原因が指摘されています。検査についての説明不足、検査を理解できない、応答の仕方のタイミングが分からない、応答する音の大きさのレベルを自分で決めている、異常に緊張する、検査に恐怖感がある。そして、集中力に欠ける、などです。

学校検診で難聴を指摘された児童・生徒の中には先に示したように聴力検査の技術的問題に起因する症例も考えられるので、十分な問診を行っても心因が見つからない場合には、すぐに心因性難聴と決めつけないで、検診難聴として過度な追求はせず、経過を見ていく考え方があります。その一方、このような症例でも性格検査や心理検査などの特殊検査を行えば、何らかの心因が把握できることがあるので、広義の心因性難聴と解釈し、放置するのは問題が多いと警告する意見もあり、難聴を指摘された児童・生徒への対応には十分な注意が必要です。

心因性難聴児の背景として多いものは、いじめにあった、学習障害、その傾向があり学習についていけない、不登校傾向、両親の不和・離婚や親子兄弟関係の問題、対人関係でのつまずき、塾での不適応、転居・転校など児の環境の変化などが挙げられています。

小児の機能性難聴の予後は比較的良好とされており、3年以上の長期観察していくと全体の約70%が回復し、その半数は6ヶ月以内に回復するといわれており、中学校を卒業する年齢になるころには約96%が治癒するといわれております。しかし、回復したかのように見えて再発や悪化をきたし、他の心因性疾患への進展や自死例を報告する文献もあり、注意が必要と思います。

最後に、この口演で学校関係者や保護者の方々に知っていただきたいことを提示しました。児童・生徒の中に機能性難聴が存在すること、学校検診の聴力検査が機能性難聴発見のきっかけになること、心因の背景に学校生活や友人関係に関する問題があるかもしれないこと、この難聴は子供たちの隠れた心の葛藤からのSOS信号である、ということです。そして、検診で難聴が疑われたとき、必ず耳鼻咽喉科専門医の受診を進めていただきたいと思います。重症例では他科への相談が必要になりますが、学校生活上の問題が原因で、かつ治りにくい症例の場合は、保護者、養護教員をはじめ学校関係者と連絡を取り合って対応について相談することが必要だと思います。

■■■ こころの健康づくり講演会 ■■■

- 主 催／岩手郡医師会
- 共 催／葛巻町健康づくり推進協議会、
葛巻医歯会
- 日 時／平成18年11月11日（土）
午後2時30分から午後4時30分
まで
- 会 場／葛巻町総合センター大ホール
- 対象者／一般住民及び岩手地区市町村保
健、医療、福祉などの関係者約
100人



近年、中高年などの自殺による死亡者が全国的に急増増加し、大きな社会問題となり、自殺予防や心の健康づくりへの対応が急務となっている。

ここ数年間を見ると、全国で年間自殺者が3万人を超えており、本県でも、昨年の自殺者は500人余りと、前年より微減はしているが全国ワースト3と深刻な状況となっている。

自殺が増えている要因は、リストラ、いじめなどが自殺と関連づけられているが、自殺がおこる背景として圧倒的に多いのはうつ病等の精神疾患が原因と言われている。

このようなことから、自殺予防をめぐる現状や今後の自殺予防対策などについて、広く住民などから状況を理解してもらい、自殺の予防を図ることを目的に開催されました。 (健康教育部会 高橋克郎)

講 演

テーマ 「ひとりで悩まないで、うつ病
の発見と治療」
講 師 県立久慈病院精神科科長
星 克仁 先生

事例報告

「自殺予防の取り組み」
講 師 久慈保健所保健師
石川由美子 氏



星 克仁 先生



石川由美子 氏

■■■「心肺蘇生法」講習会 ■■■

日 時：平成18年9月27日(水) 14:00～
場 所：岩手町総合開発センター

岩手郡医師会で例年開催している救急週間の催し物のひとつとして、今回は「心肺蘇生法」講習会を開催した。指導者として及川会長はじめ会員7名が参加、講習会参加者は町内小中学校教諭、交通安全母の会、婦人消防協力隊など35名で岩手町健康福祉課職員の協力を得て行われた。郡内消防署より借用したダミー人形3体、デモ用AED 3台を用いて約2時間で講習を終了した。

(副会長 岡田行生)

■■■ 平成18年度岩手郡救急医療対策協議会 ■■■

日 時：平成18年9月29日(金) 17:00～
場 所：ホテルメトロポリタン盛岡

4階 岩手の間

協議・報告事項

- (1) 副会長の指名について
- (2) 平成17年度 休祭日当番医の実施状況
- (3) 盛岡地区消防本部の救急体制と救急活動の状況
- (4) 災害時救急ネットワークの構築について
- (5) 岩手郡医師会災害救急医療対策要綱の見直しについて

(総務部会 栄内秀彦)

■■■ 平成18年度救急医療講演会 ■■■

日 時：平成18年9月29日(金) 18:00～

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡

4階 岩手の間

演 題：「現在の災害救護活動」

—中越地震の経験から—

講 師 盛岡赤十字病院

脳神経外科部長 久保直彦 先生

座 長 岩手郡医師会長 及川忠人

参加者：49名 (総務部会 栄内秀彦)

岩手郡救急医療対策協議会委員名簿

平成18年9月20日

委員の職	氏 名	所 属 機 関	職	備 考
会 長	及川 忠人	岩手郡医師会	会長	
副会長	渡辺 義光	八幡平市	生活福祉部長	(新任)
〃	鬼柳 悠己	消防本部	消防次長兼警防課長	(再任)
委 員	常陸 欣弘	零石町	保健課長	(新任)
〃	千葉 澄子	滝沢村 暮らしの支援部	健康推進課長	
〃	米田 敏男	岩手町	健康福祉課長	
〃	野頭 諭	葛巻町	健康福祉課長	(新任)
〃	古館 謙護	盛岡中央消防署	消防署長	
〃	小林 文雄	盛岡西消防署	消防署長	
〃	畠山 和宏	八幡平消防署	消防署長	(新任)
〃	山形 政輝	盛岡中央消防署 葛巻分署	分署長	
〃	佐藤 利栄	岩手分署	分署長	
〃	畠山 昇	盛岡西消防署 零石分署	分署長	
〃	大川 省市	滝沢分署	分署長	
〃	中村 久之	滝沢分署 滝沢北出張所	出張所長	
〃	矢羽々眞悦	八幡平消防署 松尾出張所	出張所長	(新任)
〃	菅原 正博	安代出張所	出張所長	(新任)
〃	岡田 行生	岩手郡医師会	副会長	(新任)
〃	篠村 達雅	〃	〃	
〃	栄内 秀彦	〃	理事(総務担当)	
〃	久保谷康夫	〃	理事(総務担当)	
〃	高橋 邦尚	〃	理事(総務・地域医療担当)	(新任)
〃	飯島 仁	〃	理事(地域医療担当)	(新任)
〃	森 茂雄	〃	理事(地域医療担当)	(新任)

■■■ 平成18年度岩手郡医師会 ■■■
社会保険医療担当者研修会

日 時：平成18年10月6日(金) 18:00～

場 所：岩手県医師会館 4階大ホール

研 修：

- (1) 保険診療について

講 師：岩手社会保険事務局

医療事務指導官 千葉一司 氏

- (2) 保険医療における留意点等について

講 師：岩手社会保険事務局

指導医療官 布川茂樹 氏

参加者：176名

(医療保険部会 佐々木久夫)

■■■■■ 産業医実地研修会 ■■■■■

日 時：平成18年10月21日(土)

場 所：株式会社ミサワテクノ岩手工場

参加者：計36名

平成18年度岩手郡医師会主催産業医実地研修会を、株式会社ミサワテクノ岩手工場で行ないました。岩手医科大学客員教授中屋重直先生より「産業医活動をする人のために」というご講演をいただきました。その後工場内の見学をいたしましたが、諸々の対策はとられているものの、その騒音には驚きました。会場が紅葉の終わりを迎えるようとしている八幡平のふもとにあり、終了後、森の大橋に行った方也有ったことでしょう。晩秋の半日でした。

(産業保険部会 森 茂雄)

■■■ 八幡平市安代地区地域医療懇談会 ■■■

主 催：岩手郡医師会

日 時：平成18年11月20日(月) 18:00～

場 所：新安比温泉 2 F

参加者：

安代診療所 和田 進 医師、関 事務長
田山診療所 藤沢 勲 医師
国保安代歯科診療所 田中稔夫歯科医師
八幡平市安代総合支所長 山本支所長
同上 保健福祉課長 四井課長 及川医師会長

及川忠人会長挨拶：これまで安代地区の地域医療についての協議の場を設定したいと考えていたが、遅れて申し訳ないと思っております。安代地区の様々な地域医療に関する課題を直接伺うことができれば幸いと思いますので宜しく御願いいたします。

協議内容

- (1)安代地区の地域医療の課題：国保診療の8月分の実績の概要について、外来、入院、国保歯科、調剤、受診件数、老人保険歯科、同受診、同入院等の実績を通して、安代地区の地域医療の実態について協議した。
- (2)安代地区の救急搬送の課題：地域医療の中での急患対応について、直接診療所への紹介依頼がくることはほとんど無い。また他院への紹介を行う場合には、田山地区はほとんどが、鹿角市へ紹介することが多く、荒屋地区では盛岡へ搬送することがほとんどである。毎週月曜日と火曜日は和田先生、水曜日と木曜日は藤沢先生が担当して、緊急への医療相談体制を独自に実施してきている。現在土曜日、日曜日は対応していない。
- (3)安代地区の医療と他地域との連携についての課題：ほとんど医療機関が介護保険の課題に取り組むことは無い。地域住民は高速バスを使用して、盛岡へ行き、病院搬送バスに乗り病院へ通院する方も多いようである。
- (4)全体の体制について：今後の課題として安代地区の地域医療の保持について、様々な課題があるが、医師の確保という面では、現状ではうまくいっているとの認識である。
- (5)その他：岩手郡内の救急搬送について田山診療所からは、鹿角組合病院への紹介はできても、西根病院等への紹介は現実的には所要時間に關係もあり、無理である。したがって、鹿角市の医療機関に依存しているのが実態である。

(会長 及川忠人)

自分や自分の家族が安心・信頼して診察を受けられるクリニックにしよう

新規
開業

零石大森クリニック



◆院長 大森 浩明（おおもり ひろあき）

昨年の9月1日より、零石町中央公民館（野菊ホール）の向いで、無床診療所「零石大森クリニック」を開院致しました。

私は、昭和60年に岩手医大を卒業しました。滝沢村、岩手町でそれぞれ開業している金森先生、北上先生が同級生となります。卒後は、大学院生として、第一外科に入局しました。平成2年に「閉塞性黄疸患者における胃粘膜防御と酸分泌の関係について」と題する論文で学位を取得しました。平成元年から、アメリカ合衆国のデトロイトにあります、ウェイン州立大学外科に留学して、外科内視鏡部門のフェローとして勤務しました。帰国後は第一外科に戻り、病棟勤務を行いながら、消化器外科術後の消化管運動を主に研究しました。また、週に一度、玉山村（現盛岡市）の八角病院に勤務し、退職までの15年間お世話になりました。脳卒中後遺症例を主な対象としたPEG（内視鏡的胃瘻造設術）を積極的に行って、大学症例と併せて200例以上に行いました。平成5年からは、救急センター勤務となりました。急性腹症、胸・腹部外傷、多発外傷などを中心として診療にあたり、腹部救急疾患の診断と治療を主なテーマとして臨床研究を行いました。とくに、穿孔性十二指腸潰瘍を始めとする腹膜炎に対する低侵襲性治療

（保存的治療、腹腔鏡下治療）を全国に先駆けて行い、普及推進に努めました。平成14年には第一外科に戻り、平成18年8月まで勤務いたしました。平成18年度から2年間にわたり、科学研究費補助金の交付を受けましたので、現在も非常勤講師の立場で代表研究者として、後輩と共に研究を継続しております。現在取得している資格は、消化器病専門医、外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、救急科専門医、Infection Control Doctorです。学会活動では、日本臨床外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本腹部救急医学会評議員、日本消化器病学会東北支部評議員などを務めております。

当院では、電子カルテを導入すると共に、検査画像、検査データをファイリングシステムで管理しております。開院当初は、不慣れなため、非常に疲れて、重度の肩こりに悩まされました。現在では患者さんへのわかりやすい説明と待ち時間の短縮に役立っていると考えています。当院の理念として「自分や自分の家族が安心・信頼して診察を受けられるクリニックにしよう」を掲げ、スタッフ一同、地域医療に貢献できるように努力しているところです。会員の先生方には、これからも御指導を頂くことが多々あると思いますが、よろしくお願い致します。

◆副院長 大森 可芽里（おおもり かがり）

開院に際しましては、及川会長はじめ岩手郡医師会の先生方から沢山の御指導、御助言を賜りまして誠に有難うございました。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。当クリニックは、胃腸科、眼科、外科、肛門科、内科を標榜しておりますが、もちろん私は眼科のみの担当です。とはいえ、いまだにパソコン画面に入力しながら患者さんを診察するという芸当を習得できない私、鳴り物入りの電子カルテもまさに「ナントカに真珠」の状態です。

医師になったばかりの頃は、先輩方は皆一つのミスも無いように思えましたが、自分がその年齢になってみると却って年々馬鹿になっているのが実感され、流行の100マス計算でささやかな抵抗を試みたりする今日この頃です。それでもこの先何十年かして閉院となる時には、「いないよりは良かったな」と零石の方々に思って頂けますように精進して参りたいと思っております。諸先生方におかれましては尚一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

会員の異動

月 日	所 属 施 設 名	氏 名	備 考
8月31日	ケアホーム川口	向井田 郁男	盛岡市医師会へ異動
9月30日	ニュー鳶山荘クリニック	原田 達男	同上（閉院）
12月1日	さわやかクリニック	工藤 剛嗣	退職（自宅会員）
12月	医療法人 館	紺野 敏昭	こんの神経内科脳神経外科クリニック (法人化)

お知らせ

~~~~~原稿募集のお願い~~~~~

広報部では会員の方に岩手郡医報の原稿を募集しております。

各部会の報告はもちろん、会議では議題にならないような日常の小さな出来事など、是非皆さんに知らせたいという話題をお待ちしております。

また、『こんな記事を掲載してほしい』などの要望、ご意見などもございましたら、広報部までどんどんお寄せ下さい。

※できるだけ沢山の情報をタイムリーに掲載したいと考えておりますので、簡素で魅力ある原稿（写真もあれば）をお待ちしております。

原稿はFAXか封書でお願いいたします。

みんなの **いわて** を
医 協
ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険事務代行事業

TEL.019-626-3880

**専用
フリーダイヤル 0120-054-222**

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyo>
E-mail isikyo@rose.ocn.ne.jp

 **いわて医師協同組合**
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

編 集 後 記

またまた遅くなってしまいました。今年度3回目の岩手郡医報、やっと発刊です。申し訳ありませんでした。さてこの第87号の表紙を飾りましたのは森茂雄先生の岩手山の写真です。「冬の果樹園」旧松尾村のどこかに日参して撮ってくださいました。表紙は岩手山にしたいという私のわがままに応えていただいたのです。また、今年度新規開業なさいました大森先生ご夫妻は、快く紹介文をお書きくださいました。金井猛先生も原稿をお送りくださいました。皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。平成19年度の広報委員はこれまでのメンバーに加え前述の写真家、森茂雄先生も加わっていただしたことになりました。会員の皆様にはこれからも広報委員会にご協力を願いいたします。（山口淑子）



ニューハウン（コペンハーゲン）
コンゲンス・ニュートー広場まで1671年に掘られた運河で、海の男たちのたまり場であった。
1700年代の古い建物が独特の色合いを醸しだし、この近くにアンデルセンが住んでいた。



「ゲフィオンの噴水」（コペンハーゲン）
北欧の伝説を迫力ある形にしたもので、力の限り大地を踏み、角を突き立てる4頭の雄牛とその背後でムチをふるう女神ゲフィオンは勇壮である。

岩手郡医報：No.87／2007年3月発行
発 行：社団法人 岩手郡医師会
発行責任者：岩手郡医師会会长 及川忠人
事 務 局：〒028-7303 八幡平市柏台二丁目8番2号東八幡平病院内
TEL 0195-78-2607 FAX 0195-78-2555
<http://www.iwategun-med.or.jp>
制 作：社団法人 岩手郡医師会広報部